

バグスクール：うごかしてみる！

BUG

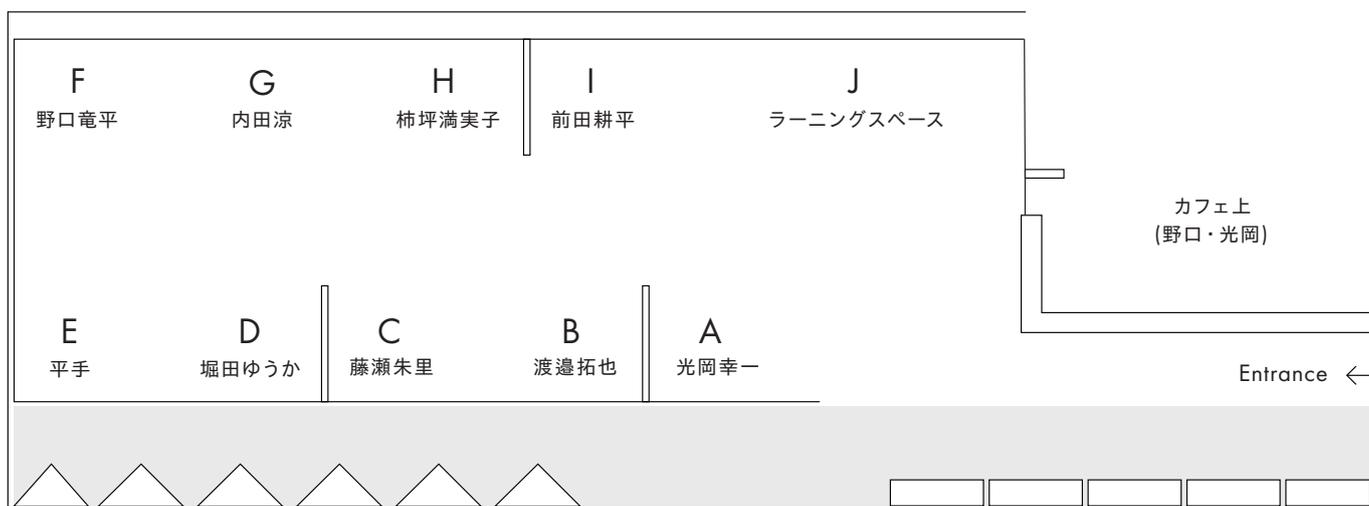
2023.11.29(水) - 2024.1.14(日)

・展示作品の購入について

会期中、展示作品の大半を販売します。今回の作品販売による売上は、作家収入分、作品配送経費等を除いた収益金を、セーブ・ザ・チルドレンに寄付し、今と未来を担う子どもたちの支援のために役立てられます。また、本企画では、鑑賞者がアーティストや作品について知った上で作品購入することができる機会として、参加アーティスト9名による「参加型プログラム」を実施します。作品売上の有機的なあり方を考える試みでもあります。ご購入を希望される方は右記QRコードより購入フロー詳細とQ&Aをご確認ください。



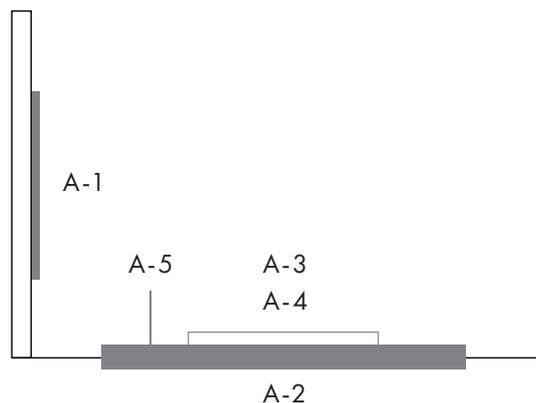
・作品リスト 各作品について、作品名/制作年/素材/サイズを記した。全て作家蔵。



A : 光岡幸一 / Koichi MITSUOKA

—鑑賞する上での鍵—

光岡さんが展示棚を踏み台にして壁をよじ登る。もしかすると展示棚に置かれた作品が落ちてくるかもしれない。通常の展示空間では禁止されていることが平然と起こり、揺らぐ鑑賞体験のなか、アテレコされた映像がモニター群から次々と流れる。不意に笑いそうになっても大丈夫。光岡さんの身体や発声が介入することで、徐々に自由になっていく展示空間を、まるで探検するかのよう、好きな光景や言葉を探してみてもはどうだろう。小さな声量ならあなたの言葉を重ねてもいいかもしれない。



A-1
《ふたしかなものたちへ》
2023年
デジタルプリント
145.6×103 cm

A-2
《自転する生唾のきらめき》
2023年
ミクストメディア、パフォーマンス
サイズ可変

A-3
《なんか言おうとしたけど忘れた》
2022年
ビデオ：4分

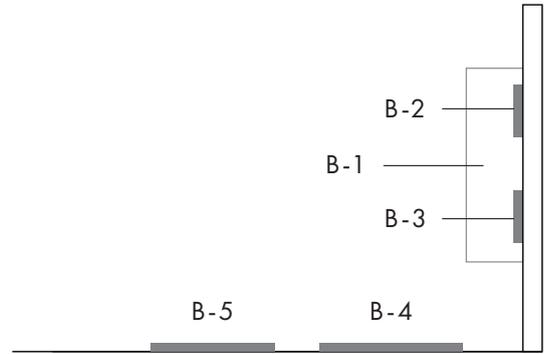
A-4
《drawing》#1～
2023年
インク、紙
36×26 cm(各) ※会期中に点数が変動します。詳しくは作品リストを参照ください。

A-5
《足の裏で魚を飼え》#1～#2
2023年
水性ラッカー塗料、アクリルミラー
20×12×0.2 cm(各)

B：渡邊 拓也／Takuya WATANABE

—鑑賞する上での鍵—

逆さ言葉を繰り返すことで意味の解体を試みる《LIKE GRAVITY》と、タイル生産工場働くK氏の聞き取りをもとに制作した《工員K》を上映。《工員K》では渡邊さんがK氏の言葉を反芻しながら、朦朧とタイルを移動し続けることで、K氏の身体性を憑依させることに挑戦した。新作《Drawing as Labor》ではこのタイルに、身体負荷を与えた状態で「労働」という言葉を金液で描きつけた。細部まで目を凝らすと筆跡から渡邊さんの身体性が滲み出ている。あなたの思う労働はどのタイルが表しているだろうか。



B-1
《Drawing as Labor》
(50点シリーズのうち7点平置き)
2023年
金液、タイル
9.8×9.8×0.2 cm(各)

B-2
《Drawing as Labor》
2023年
金液、タイル、額
20×20×3 cm

B-3
《Drawing as Labor》
2023年
金液、タイル、額
30×30×3 cm

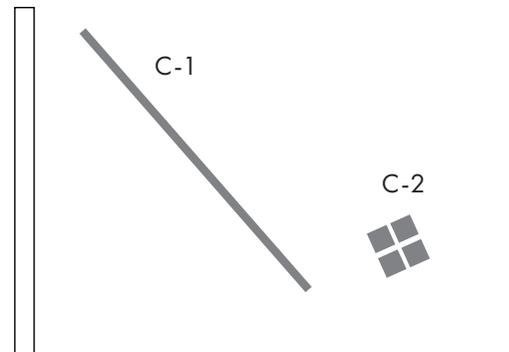
B-4
《工員K》
2017年
ビデオ
21分22秒

B-5
《LIKE GRAVITY》
2022年
ビデオ
7分51秒

C：藤瀬 朱里／Akari FUJISE

—鑑賞する上での鍵—

藤瀬さんのドローイングの代表作《Where the kiss will be tomorrow》は紙漉きの手法を応用して制作された。整った支持体の上に線をひくのではなく、紙の繊維も線として捉え、支持体と線を同時に立ち上げていく。あえてコントロールしづらい手法を生み出すことで、取り巻く複雑な世界への応答として、身体感覚をよすがにドローイングを重ねる。多層的だが透明感のある大きな膜が、展示空間に広がり、まるで呼吸するかのように微動している。ぜひ立ち止まって、生命の宿る作品をゆっくりと観察してほしい。



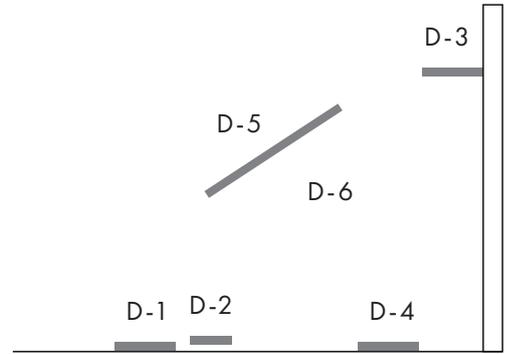
C-1
《Where the kiss will be tomorrow》
2023
糸、紙
300×210 cm

C-2
《Muune》#9～#12
2023年
ガラス
12×13×13 cm

D : 堀田 ゆうか / Yuka HOTTA

—鑑賞する上での鍵—

堀田さんは支持体や空間といった場の条件に対して、いかに身体感覚を再構築できるか試みる。平面の作品群はベニヤ板などの支持体に直接描いたドローイングを、ハンディスキャナーで手ブレを含めてデータ化して、支持体の表面に印刷、そこから現れるイメージのズレをドローイングで埋めて、再びスキャンする、という手法を何度も繰り返す。メディアを移動させながら、支持体上に圧縮された身体のプロセスが図像として浮かび上がる。その過程を想像しながらぜひ鑑賞してもらいたい。



D-1
《ey-1》
2023年
鉛筆、ジェッツ、紙、トナー、ラワンベニヤ
28×12.5×0.2 cm

D-2
《ey-2》
2023年
鉛筆、ジェッツ、紙、トナー、ラワンベニヤ
20×12×0.2 cm

D-3
《ey-3》
2023年
鉛筆、ジェッツ、紙、トナー、ラワンベニヤ
34×26.5×0.2 cm

D-4
《ey-4》
2023年
鉛筆、ジェッツ、紙、トナー、ラワンベニヤ
59.5×32.1×0.2 cm

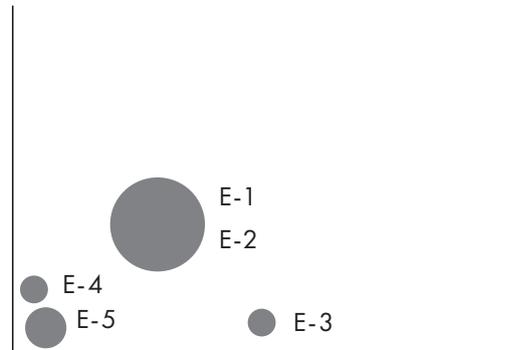
D-5
《eeeyyyyyee.》
2022年
鉛筆、シルクスクリーン、ジェッツ、合板
143×89×0.2 cm

D-6
《〜》
2022-2023年
木材
サイズ可変

E : 平手 / HIRATE

—鑑賞する上での鍵—

テキスタイルで作られた人型オブジェ作品(人形)と、人形と共演したパフォーマンス記録を中心に展開。モニターで上映する記録映像では、平手さんは人形に話しかけ、はしゃぎ、時には喧嘩している。平手さんと人形の関係に私たちは何を重ねるのか。展示中央のポールハンガーに寄り掛かる《友情再生機器・人形 R-1113》は実際に手で触れることができる。ぜひ近づいて優しく触ってみよう。展示作品である人形と鑑賞者のあなたとの間で、少し変わった関係性が生まれるかもしれない。



E-1
《友情再生機器・人形 R-1113》
2023年
布、綿、ポールハンガー
170×45×12cm

E-2
《パースデーケーキ、うんこ》
2023年
布、綿、メロディーカード部品
15×30×9 cm

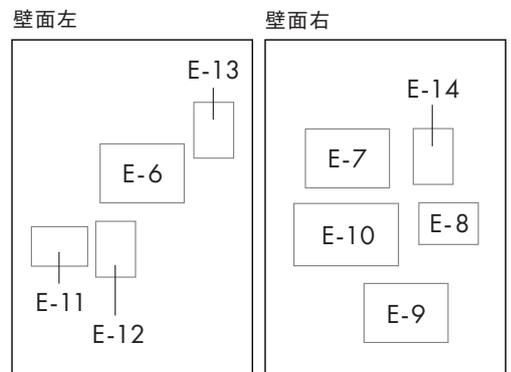
E-3
《火事場の関係、帽子付き》
2023年
布、綿、ビーズ
50×40×30 cm

E-4
《有痛友情's》
2022年
布、綿、ビーズ
40×20×5 cm

E-5
《監視員B》
2022年
布、綿、革
120×40×15 cm

E-6
《記録写真》#1
2023年
デジタルプリント
42×59.4 cm

E-7
《記録写真》#2
2023年
デジタルプリント
42×59.4 cm



E-8
《記録写真》#3
2023年
デジタルプリント
29.7×42 cm

E-9
《記録写真》#4
2023年
デジタルプリント
42×59.4 cm

E-10
《記録映像》
2023年
ビデオ
3分33秒

E-11
《思い出輝度考察の図》#1
2023年
紙
29.7×42 cm

E-12
《思い出輝度考察の図》#2
2023年
紙
42×29.7 cm

E-13
《思い出輝度考察の図》#3
2023年
紙
42×29.7 cm

E-14
《思い出輝度考察の図》#4
2023年
紙
42×29.7 cm

F：野口 竜平／Tappei NOGUCHI

—鑑賞する上での鍵—

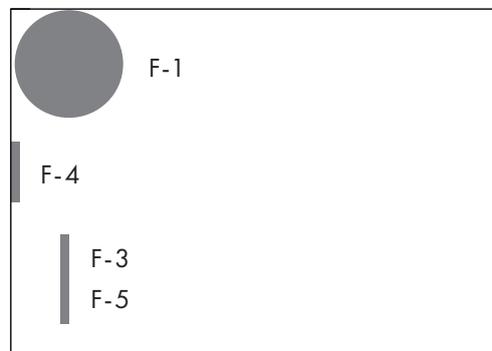
頭上を這う《蛸と凧のプラクティス》は、脚一本一本に独立した知性がある蛸に着想を得て制作された「蛸みこし」の新作。《干しエイリアン行商セット》とカフェ上に佇む《エイリアン（緑）》も含め、全作品には通底する物語がある。この物語は野口さんが歴史学、生物学、社会学など多岐にわたる分野から「蛸」を調査し、他者と蛸みこしを担いで実験するなかで発見した豊かなイメージ群で紡がれている。気になる方は《展示ボード》に置いてある新聞を手にとってみよう。

F-1
《蛸と凧のプラクティス》
2023年
竹、ビニール紐、紙、辰砂、膠、タコ糸、ほか
サイズ可変

F-4
《展示ボード》
2023年
ビデオ、新聞、板
ビデオ：1分2秒、ボード：53×100×44 cm
※新聞は自由にお持ちください。

F-3
《干しエイリアン》#1～
2023年
竹、和紙、タイベック、辰砂、膠
サイズ可変
※会期中に点数が変動します。詳細は作品リストを参照ください。

F-5
《干しエイリアン行商セット》
2023年
背負子、竹、紙
サイズ可変



G : 内田 涼/Ryo UCHIDA

—鑑賞する上での鍵—

内田さんは感覚に寄り添って筆を動かすなかで、浮かび上がってくる形や色の連なりを起点に絵を描いていく。36点のドローイング群《pōnō》は、自らの手や目が反応した痕跡や、滲みでる潜在意識など、よりプリミティブな感覚を引き出し記録するための日々の実践である。さらに大型作品の《ワーム》では形をなぞったり、動かしてみたり、キャンバス内を行き来した過程が組み合わさっている。内田さんの作品からどんな景色が見えてくるのか、あなたの記憶や感覚を頼りにぜひ想像を巡らせてみてほしい。

G-1
《pōnō》#1 ~ #36
2023年
アクリル絵具、水彩紙
36.4×25.7 cm(各)

G-2
《ワーム》
2023年
アクリル絵具、キャンバス
162×130.3 cm

G-2

G-1

H : 柿坪 満実子/Mamiko KAKITSUBO

—鑑賞する上での鍵—

柿坪さんはモチーフを置かず、記憶を起点に制作する。昨今は写真や映像で容易に記録できるが、自分の感覚で景色や誰かの姿を覚えること、記憶を頼りに思い出すことを大切にしている。昔見た海の光景を思い出して制作した《someday somewhere》、透明感のある布に包まれ、淡く存在する《まなざし》。両作品にあなたが過去に出会った景色や人を重ねてもよいだろう。《いつか思い出せなくなるまで》は、手のひらで氷が溶けていく過程が映し出される。氷の輪郭を正確に捉えようとしても、徐々に曖昧になっていく様子は、記憶を留められない時間軸が確かに在ることを、優しく伝えているのかもしれない。

H-1
《someday somewhere》#1~#9
2023年
テラコッタ、釉
16.5×16.5×2 cm(各)

H-2
《いつか思い出せなくなるまで》
2023年
ビデオ
20分21秒

H-3
《静かな枝》
2023年
ガラス
5×6×3.5 cm

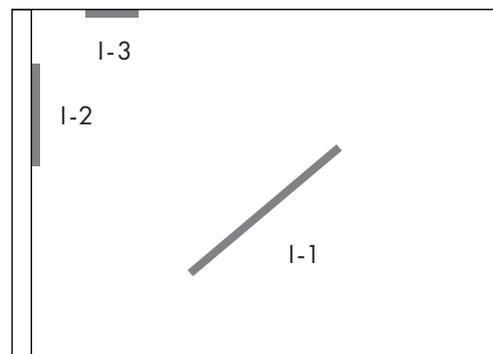
H-4
《まなざし》
2023年
テラコッタ、綿、布、糸
57×25×15 cm

H-3 H-2
H-4
H-1

I: 前田 耕平 / Kohei MAEDA

—鑑賞する上での鍵—

不可視なものに対する想像力や民話に焦点を当てた「とある川」の調査を出発点に、各作品を制作した。パフォーマンス《或る川の話》では、調査のなかで体験したことや聞き取ったことを、自らの身体を媒介に展開。《Good River/Sungai Bagus》の投影スクリーンは、滞在調査で愛用した腰巻き布で、付着した汚れや皺は、前田さんの身体が「とある川」に存在した事実と時間を表している。タイトル内の Good River（良い川）とは一体どんな川なのか。点描画のようにおぼろげな、目に見えない気配を感じながら想像してみてもは。



I-1

《Good River/Sungai Bagus》

2023 年

ビデオ、スクリーン(サルーン)、ロープ、木、フレームスタンド

ビデオ：2 分 45 秒、サイズ可変

I-2

《Good River/Sungai Bagus》

2023 年

ペン、紙

90×90 cm

I-3

《或る川の話》

2023 年

ビデオ

14 分 37 秒

J: ラーニングスペース

参加型プログラムの会場でもあり、出展アーティストの推薦図書をゆっくり読める憩いの場でもあります。展示会の鑑賞中にひと休みしても、友人たちと感想を語り合ってもOK。使い方は自由です。是非ご活用ください。

※ラーニングスペース内限定でBUG Cafeの飲み物をお楽しみいただけます。展示スペース内は飲食不可です。

カフェ上

A-2

光岡 幸一

《自転する生唾のきらめき》

2023 年

ミクストメディア、パフォーマンス

サイズ可変

F-2

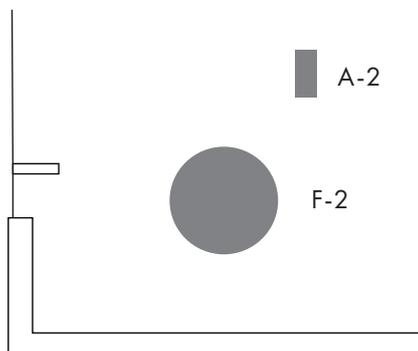
野口 竜平

《エイリアン(緑)》

2023 年

竹、ビニール紐、タイベック

サイズ可変



・参加型プログラム

会期中に出展アーティストによる参加型プログラムを開催します。展示作品と地続きのパフォーマンスや、身体を動かしながらアーティストの制作背景を体験できるワークショップなど、多彩なプログラム群です。作品鑑賞だけでなく、実際に身体を動かしながら作品について考えてみませんか？

「思い出に触れる日」／柿坪満実子

12月3日(日)14:00～17:00 予定

柿坪満実子さんが制作の起点とする「記憶」をテーマに、制作過程を追体験できるワークショップを開催します。

「子ども蛸の東京探検」／野口竜平

12月9日(土)13:00～16:00 予定

本展のために制作された物語に沿って「蛸みこし」を体験するワークショップを実施します。野口竜平さん扮するエイリアン博士と交流しながら、実際に蛸みこしを担ぎます。

「無痛友情室～検体 1997号～」／平手

12月10日(日)19:00～19:40 予定

平手さんと展示作品の人形が共にパフォーマンスをします。パフォーマンス終了後は人形に触れながら平手さんとお話する時間を設けます。

「公共空間における呪文の唱え方講座」／渡邊拓也

12月15日(金)19:00～21:00 予定

作品のなかで渡邊拓也さんが実践した発話手法を体験、言葉の意味を解体し、別の意味や印象へ転化させるワークショップを開催します。

「すみっこディスカバリーボイススクール」／光岡幸一

(1)12月16日(土)13:00～16:00 予定

(2)1月8日(祝・月)13:00～16:00 予定

作品に登場するアテレコを用いて、光岡幸一さんと一緒に遊び心のある視点で都市を捉える、全2日間のワークショップを実施します。

「解体と構築のドローイング」／藤瀬朱里

12月17日(日)13:00～15:30 予定

藤瀬朱里さんが制作で使用する、紙漉きの手法を応用した「紙と糸で描くドローイング」の体験ワークショップを開催します。

「あわいのからだをドローする - 『無意識の身体』をこねてみる - 」／堀田ゆうか

12月23日(土)14:00～16:00 予定

堀田ゆうかさんが関心をもつ「日頃の何気ない身体の所作」と「そこから生まれる形象」に焦点を当て、座談会形式のワークショップを実施します。

「エイリアンの天日干し」／野口竜平

1月6日(土)13:00～16:00 予定

野口竜平さんが近年の「蛸」に関するリサーチで発明したモチーフ「干しエイリアン」を実際に制作するワークショップを開催します。

「或る川の話」／前田耕平

1月13日(土)15:30～18:00 予定

前田耕平さんが注力する「川」に関するリサーチのなかで、経験したことや見聞きしたことを出発点にレクチャーパフォーマンスを開催します。

※本プログラムでは特別にパフォーマンスの販売案内を実施します。

「ないカタチ・あるカタチ」／内田涼

1月14日(日)13:00～16:30 予定

内田涼さんが制作手法を共有しながら「カタチ」にまつわるワークショップを開催します。自由な感覚と発想で、身の回りにあるカタチについて考えます。

・関連イベント

「バグスクール：うごかしてみる！」の関連イベントとして、以下のイベントを開催。※詳細はBUG ウェブサイトをご確認ください。

トークイベント：池田佳穂(キュレーター) × 山中俊広(the three konohana ギャラリスト/キュレーター)

2023年12月22日(金)

会場：BUG

トークイベント：池田佳穂(キュレーター) × 光岡幸一(本展出品アーティスト)

2023年12月24日(日)

会場：BUG、オンライン配信

謝辞

本展覧会開催にあたり、多大なるご協力を賜りました皆様に厚く御礼を申し上げます。
さらに、ここにお名前を記すことを控えさせていただきました皆様方に対しまして、深く感謝の意を表します。
(敬称略・順不同)

岩中可南子
孔繁璋
清水美帆
鈴木健太
富山県立大学POLYGON

高瀬川モニタリング部
森口武
山本麻友美
山本洋明

Adhari Donora
taufiq yendra
Nonblok Ekosistem
Rumah Budaya Siku Keluang

「バグスクール：うごかしてみる！」

会期：2023年11月29日（水）－1月14日（日）
主催：BUG

キュレーション：池田佳穂（インディペンデント・キュレーター）
運営：小林祐希、石井貴子（BUG）
広報：桑間千里、石谷茉莉子（BUG）
制作：飯野優美、吉沢文江（BUG）

告知物デザイン：関本明子
翻訳：鈴木梨穂

作品・会場撮影：那須竜太
インタビュー・会場映像撮影：西野正将

会場設計：内海皓平
設営：HIGURE 17-15 cas